

岐阜赤十字病院 こころのケア班 活動報告

1. 活動期間 平成23年8月25日(木)～8月29日(月)

2. 班員
 ・看護師長 多田里美(西館7階看護師長)
 ・連絡調整員 野村昭雄(経理係長兼経営企画係長)

3. タイムスケジュール

月 日	時 間	主な事柄	備 考
H23.8.25	7:30	班員集合。物品チェック。	
	7:45	出発式。	
	8:00	こころのケア班、岐阜赤十字病院出発。	
		JR線:岐阜駅⇒仙台駅…高速バス:仙台駅⇒石巻駅…タクシー:石巻駅⇒石巻赤十字病院	JR名古屋駅にて岐阜県支部服部参事と合流
	16:30	石巻赤十字病院着。こころのケア第36班(福岡)から引継ぎ。	
	18:10	引継ぎ終了。石巻赤十字病院出発	
		レンタカー:三陸道(石巻河南IC)⇒三陸道(松島北IC)	
	20:00	宿舎「新富亭」到着	
月 日	時 間	主な事柄	備 考
H23.8.26	7:15	宿舎「新富亭」出発。	
		レンタカー:三陸道(松島北IC)⇒三陸道(石巻河南IC)	
	8:10	石巻赤十字病院到着。	
	8:30	石巻赤十字病院出発。	
	9:00	石巻市役所到着。市保健師とミーティング。	
	9:15	石巻市役所出発。	
	9:40	稲井公民館到着。こころのケア実施(対応人数4名)	
	10:45	稲井公民館出発	
	11:20	石巻赤十字病院到着	
	13:00	ミーティング開始	臨床心理士田中氏、三浦氏同席
	14:10	ミーティング終了	
	15:00	活動終了。石巻赤十字病院出発。	
		レンタカー:三陸道(石巻河南IC)⇒三陸道(松島北IC)	
18:00	宿舎「新富亭」到着		
月 日	時 間	主な事柄	備 考
H23.8.27	7:30	宿舎「新富亭」出発。	
		レンタカー:三陸道(松島北IC)⇒三陸道(石巻河南IC)	
	9:00	渡波中学校到着。こころのケア実施(対応人数5名)	
	10:45	渡波中学校出発。	
	13:00	石巻赤十字病院到着	
	15:00	ミーティング開始	
	15:30	ミーティング終了	
	17:45	活動終了。石巻赤十字病院出発。	
		レンタカー:三陸道(石巻河南IC)⇒三陸道(松島北IC)	
18:30	宿舎「新富亭」到着		

岐阜赤十字病院 こころのケア班 活動報告

月 日	時 間	主な事柄	備 考
H23.8.28	7:30	宿舎「新富亭」出発。 レンタカー：三陸道(松島北IC)⇒三陸道(石巻河南IC)	
	9:00	渡波小学校到着。こころのケア実施(対応人数5名)	
	10:45	渡波小学校出発。	
	11:30	石巻赤十字病院到着	
	13:10	石巻赤十字病院出発	
	13:20	蛇田公民館到着。こころのケア実施(対応人数2名)	
	14:00	蛇田公民館出発。	
	14:05	石巻赤十字病院到着	
	16:00	こころのケア第38班(沖縄)への引継ぎ。	
	17:00	ミーティング開始	臨床心理士田中氏同席
	18:20	ミーティング終了	
	19:30	活動終了。石巻赤十字病院出発。 レンタカー：三陸道(石巻河南IC)⇒三陸道(松島北IC)	
	20:15	宿舎「新富亭」到着	

月 日	時 間	主な事柄	備 考
H23.8.29	7:15	宿舎「新富亭」出発。 レンタカー：三陸道(松島北IC)⇒三陸道(石巻河南IC)	
	9:00	石巻市役所到着。市保健師とミーティング。	
	9:15	石巻市役所出発。	
	10:00	万石浦中学校到着。こころのケア実施(対応人数3名)	
	11:20	万石浦中学校出発	
	12:00	石巻赤十字病院到着	
	12:30	石巻赤十字病院出発 レンタカー：三陸道(石巻河南IC)⇒三陸道(仙台東IC)	
	14:30	レンタカー返却。タクシーにて仙台駅へ	
	15:00	仙台駅到着	
	15:48	仙台駅出発	
		JR線：仙台駅⇒岐阜駅	JR名古屋駅にて岐阜県支部服部 参事と解散
	20:30	岐阜赤十字病院到着。班員解散。	

4. 状況	<p>活動する石巻市では沿岸付近の道路は路面が波打っていたり、付近の住居も破損したまま手もついでいないものが多くあり、現在もまだ復旧途中という状態であった。</p> <p>このような環境の中で、赤十字のこころのケアが8月31日で終了となるので今回の訪問で終了となることを多くの避難所で伝えたが、どの避難所も混乱なく対応していただけた。</p> <p>また、仮設住宅や住居整備が進み避難所で生活している方は以前よりも減っていたり、避難所の生活者も平常に戻りつつあるため昼間は仕事で居ないといったこともあり、こころのケア訪問時に避難所にみえる方は少なかった。</p>
-------	---

5. 活動の感想	<p>こころのケアで避難所を訪問していくと、話をしても人としての強さを感じられました。特に高齢者の方からそのような印象を強く受けました。</p> <p>また、以前の班から引継いできた相談記録でケアが必要とされている本人と話してみると、記録の内容と違っているような印象を受ける方もあり、ケアをする人の違いによってケアが必要と判断される程度に違いがあることもわかり、この部分は今後赤十字として考えるべき問題ではないかと感じました。</p> <p>最後に、ある避難所へ行ったときに、「赤十字です」と自己紹介すると最初はいぶかしげであったのが、好意的な笑顔で「ありがとうね」と言いながら近づいて来てくださった方たちがおり、このときには今までのこころのケア班が築いてきた赤十字としての信頼の大きさを痛感しました。</p>
----------	---